



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
77
えな館

上矢作ラ・フォーレ福寿の里

清流と森に囲まれた道の駅



▲洋館風の建物と石のモニュメント

ひと口メモ

道の駅には、大きな石のモニュメントが建っている。これは、大船神社にある弁慶杉をイメージしたもの。ラフォーレ福寿の里は、モンゴルの歌手オユンナさんが名誉駅長を務める。

国道257号の上矢作町木の実地内、森林の続く中にある洋館風の小さな建物が上矢作ラ・フォーレ福寿の里。1997（平成9）年に営業を開始した道の駅。ラ・フォーレはフランス語で「森」という意味で、住民公募で採用。川のせせらぎと木々を渡る風で、心が深呼吸するような森の中のオアシス。駅の裏を流れる木の実川には親水公園があり、水遊びを楽しむこともできる。上流に架けられた長さ49メートルの木製の橋「せせらぎ橋」を渡れば、モンゴル村や森への散策が可能。物産販売館では、地域の特産物を販売している。



▲物産販売館には地域の野菜や特産物が並ぶ

からすみ

富士山の形が特徴

えな自慢
78
えな食



▲桃の節句にからすみを作って祝う風習がある

ひと口メモ

戦前は、この地方の裕福な家庭の菓子として作られていた。味や作り方にはそれぞれの家庭の個性があり、がんどうち（おひな様を近所の子どもが見に来る行事）などで、近所や親戚でお互いに分け合う習慣が今でも残る。

富士山の形が特徴で昔からひな菓子として親しまれている米粉で作った^{さおも}竿物の蒸し菓子。白砂糖で甘みを付けた白いものの他、黒糖を使った黒いもの、落花生、砕いたクルミの果肉、ベニイモ、ヨモギの葉などを練り込んだものがある。この地方の各家庭では、桃の節句にからすみを作りお祝いをするという風習がある。名前の由来と発祥は、子宝の象徴としての縁起物である珍味のカラスミの形に似せて作ったという説と、中国で作られた富士山^{からすみ}の形をした墨、すなわち唐墨に形が似ているためという説があるが、明らかにはなっていない。一説には、恵那山の形を模したともいわれている。



▲桜で彩りを添えたからすみ

次号は8月15日号
発行日は8月15日(水)です

広報えな No.179

2012年（平成24年）
8月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1

☎(0573)26-2111／☎25-6150／(IP電話)050-5808-9521

http://www.city.ena.lg.jp/ ☒info@city.ena.lg.jp

『広報えな』8月1日号、
1部当たりの印刷経費は
約9.3円(税込み)です。



◀市安心安全メール配信システム
(登録用QRコード)
市WEB版文字放送システム
(閲覧用QRコード)

□問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。